

河川生態学術研究会の千曲川現地視察会 および 第 21 回 河川生態学術研究発表会

自然環境グループ 研究員 内藤 太輔、渡邊 彩花

本稿では、当研究所が事務局を務める河川生態学術研究会（以下、研究会）の活動として、平成 30 年 11 月に開催した「千曲川現地視察会」と「第 21 回河川生態学術研究発表会」について報告します。

この研究会は、平成 7 年に生態学と河川工学の研究者が共同して創設したもので、河川における生態系の解明とその上に立った河川管理について研究、議論するとともに、次世代を担う研究者を育成することを目的とした、取り組みを進めています。

●千曲川現地視察会

研究会には、テーマと対象河川・流域を設定して研究を進める複数の研究グループがあります。研究会は、毎年、これらの研究グループのフィールドを順に視察しており、実際の調査箇所の状況とあわせて研究内容を理解し、より具体的な議論を行うことで各研究の質的向上を図っています。

今回は、平林公男教授（信州大学）が代表を務める千曲川研究グループのフィールド千曲川を対象とし、平成 30 年 11 月 1、2 日に現地を視察しました。千曲川研究グループからは、7 名の研究者と千曲川河川事務所が参加しました。

初日は、調査箇所となっている常田、冠着、岩野地区を視察し、千曲川研究グループの研究者から、関連するそれぞれの研究内容について説明を受けて、意見を交わしました。

二日目の意見交換会では、口頭発表と質疑応答、研究グループ全体のまとめ方などについての議論がありました。千曲川研究グループの研究テーマは、“河川中流域における生物生産性の機構解明と河川管理への応用”であり、全体の基盤となるモデルから、基礎生産、底生動物、高次捕食者の魚類、鳥類まで、その発表内容は多岐にわたり、様々な観点で意見交換がされました。

●第 21 回 河川生態学術研究発表会

平成 30 年 11 月 16 日に東京大学弥生講堂・一条ホー

ル（東京都文京区）にて、「第 21 回 河川生態学術研究発表会」を開催しました。

本研究発表会は、生態学と河川工学の研究者が共同で生態学的な観点より河川を理解し、先進的な研究成果を発表・議論することを目的とし、研究会と応用生態工学会の共催で開催しています。

今回の河川生態学術研究発表会は、各研究グループの口頭発表と、菊池川、千曲川、木曾川の 3 研究グループより総数 15 のポスター発表がありました。さらに、話題セッションでは、「環境 DNA の河川の現場への適用」のテーマ設定で、5 名のパネリストが研究内容を紹介した後パネルディスカッションが行われました。

個々の研究者と参加者との活発な意見交換が行われ、参加者へのアンケートでは、「最先端の研究内容を知れてよかった」、「これからの河川整備や管理の参考になった」等の意見が見られました。

今年度の参加者アンケートでいただいた意見を来年度の発表会の内容や運営に活かしていきたいと考えております。来年度も秋ごろに開催予定ですので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

1. 研究グループの研究発表

- ・石狩川・十勝川研究グループ 中村太士 代表
- ・河川総合研究グループ
一柳英隆 リーダー、佐藤拓哉 リーダー、宇野裕美
- ・菊池川研究グループ 島谷幸宏 代表
- ・千曲川研究グループ 平林公男 代表
- ・木曾川研究グループ 森 誠一 代表

2. ポスターセッション

- ・菊池川、千曲川、木曾川研究グループ

3. 話題セッション

テーマ：環境 DNA の河川の現場への適用
 ※コーディネーター：関島 恒夫（新潟大学）
 ※パネリスト：赤松 良久（山口大学）、東城 幸治（信州大学）、永山 滋也（岐阜大学）、皆川 朋子（熊本大学）、宮 正樹（千葉県立博物館）



図 現地視察の様子



図 研究発表会の様子（参加者数 168 名）